



▲重松流祭囃子の創始者である古谷重松の生誕180周年を記念し、「重松流サミット2010」が開催されました。市内外から重松流祭囃子を継承する保存団体が一堂に会し、会場は大いににぎわいました。

6月6日(日)／中央公民館および所沢元町コミュニティ広場

みんなのひろば



▲『日本卓球リーグ所沢大会』が開催されました。国内トップレベルの選手たちが熱い戦いを繰り広げ、打ち合う音が会場に響き渡りました。

6月16日(木)～20日(日)／所沢市民体育館 (撮影：市民カメラマン・池田敏明)



▲地域の皆さんが川の再生に取り組んでいる柳瀬川。この日、柳瀬川の現場交流会が開かれ「柳瀬川の清流復活、みんなで頑張ろう」と愛着のある地域の柳瀬川再生への思いを一つにしました。

6月13日(日)／柳瀬川(上山口)ほか



▲ちびっこ力士みんなが頑張った「第31回ちびっこフェスティバルわんぱく相撲大会「所沢場所」」。大技も飛び出し、会場からは温かい拍手と声援が送られていました。

6月13日(日)／所沢市民体育館 (撮影：市民カメラマン・木村清貴)



目指せ 低炭素化! 温暖化をとめよう



「暑さをしのぐ楽しい工夫!」

夏、冷房の効きすぎた部屋で長袖シャツやカーディガンが必要になるなんておかしな話ですね。夏が暑いのは当たり前!冷房の設定温度を控えめに、暑さをしのぐエコで楽しい工夫をしてみましょう。

◆緑のカーテンにチャレンジ

緑のカーテンとは、夏、窓の外側にネットを張り朝顔やゴーヤなどのつる性植物の葉っぱで日陰をつくることにより、室内を快適にする自然のカーテンです。

暑い日中、カーテンの内側はおよそ4℃も温度が下がっています。一粒の種が大きく育つ楽しみや、窓辺を飾る色とりどりの朝顔、食卓にのる新鮮なゴーヤなど、安らぎを感じ、ときには食欲も満たして暑さをしのぎましょう。

◆打ち水で涼しさを...

打ち水とは、水をまくことで気化熱により周辺の温度を下げることです。みんなで一緒に行うことで1℃から2.5℃の気温が下がり、涼しい風が吹いてくるといわれています。日中の暑いさなかに打ち水をすると、むしむして逆効果のこともありますので、朝夕の涼しいうちに地面などに少しずつまくのが効果的です。打ち水には、雨水や風呂の残り湯など水道水を使わないエコな工夫をしましょう。



◆熱中症に注意しましょう!

熱中症とは、暑さのために体調不良になることです。ひどくなると気を失ったり、症状が重くなることもあります。暑い日に外にいたりスポーツをしていたりするときだけでなく、家の中でも熱中症はおこることもありますから、注意が必要です。

熱中症を防ぐために、水分を充分にとる、こまめに休む、涼しい服装にする、帽子をかぶったり日傘を使ったりする、風通しの良い日陰に入るなど、日ごろの対策を心がけましょう。

所沢市はチャレンジ25キャンペーンに参加しています
問い合わせ 環境総務課 ☎2998-9133 ☎2998-9394

チャレンジ25
未来が変わる。日本が変わる。

はっらっ 野老っ子



梅雨の季節。皆さんは、何本の傘を使っていますか。皆さんにとって大切な傘はありますか。

今回は、リサイクルふれあい館エコロで実施している「傘修理」でご活躍のお一人、秋山脩さんをご紹介します。

手先が器用な秋山さんは、機械関連の仕事を定年退職後、職業技術専門学校に入学し、ふすまや障子補修の科目を学び、卒業後は市シルバー人材センターに登録しました。センターでは、辻森さんという方が傘修理をされていて「自分はその修理の様子をいつも見ていた」と話します。その辻森さんが辞めてしまった後も、傘修理の依頼は後を絶たず、後任として修理の様子をじっと見ていた秋山さんに白羽の矢が立ちました。「辻森さんのご自宅まで行って教わりました」と傘修理を引き受けた当時を振り返ってくれました。

会場をエコロに移し傘修理をしていると、昔の自分のように興味深く作業を見守る人や「部品はどこで買えるの」と聞いてくる人がいます。また、ときには、持ってきた傘の思い出話をする人もいます。秋山さんは「直った傘を手にしたときの喜ぶ笑顔を見ると、自分もうれしくなるんです」と作業の手を休めずに語ります。壊れた傘を持ってエコロに来る人に出会うと「あっ、この人は物を大事にする人なんだ

思い出の傘を修理して

秋山 脩さん(松葉町在住)

なぁ」と修理する気持ちにも張りが出てくるといいます。

傘修理には専門の部品と部品を加工して使う技術が必要です。1本で3～4か所壊れていても「せっかく持ってきてくれるのだから、なんとか直してあげたい」と修理方法にも工夫を凝らします。「その傘が思い出のひとつだと思うとね、喜ぶ顔も見たいし」と修理を続ける気持ちを打ち明けてくれました。

「物のない時代に育ったから、おもちゃも自分で作った」と子ども時代を語る秋山さん、時間があれば公民館や小学校でも傘修理をやってみたいと話します。「実際に修理をしている姿を見てもらうと、物を大事にする心が育まれるかも」と期待を寄せます。

「ふすまや障子の修理、傘の修理をして一度もつらいと思ったことはありません。いつも楽しくやっています」と笑顔で話してくれました。

雨のときに活躍する傘、壊れても修理をして思い出とともに大事にしてみましょう。



▲エコロの傘修理での秋山さん(中央)

ところざわ 歴史まめ知識

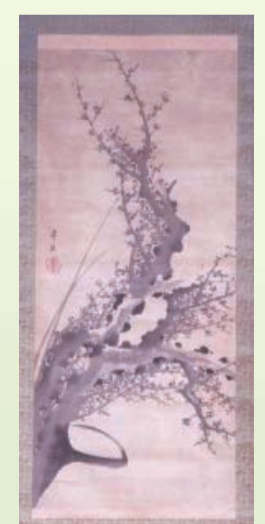
所沢市域にかかわる歴史的事項を50音順に紹介しています。今号は「う」です。



浦所バイパス 国道463号線浦和・所沢間17キロメートル余りの道路の通称。所沢市分は昭和46年に英橋(新座市。川越街道との交差点)からオリンピック道路(市内亀ヶ谷交差点)まで開通し、同49年10月に当時の市道21号線(西新井町付近)とつながりました。全線開通まで10年近くかかりました。沿道の2,000本以上のケヤキは日本一長いケヤキ並木道として知られています。

漆紙文書 市内南住吉の東の上遺跡から出土した奈良・平安時代の古文書。紙そのものは黒ずんで肉眼では何も見えませんが、赤外線写真により、表面に具注層と呼ばれる当時の層を示す文字が書かれ、裏面には馬の絵が描かれていることが確認できます。紙を二次的に利用し、漆を入れる容器のふたとして使われました。漆が付着したため腐らずに、書かれた内容が今日まで保存されたと考えられます。

雲溪 幕末から明治にかけて梅の墨絵を得意とした画僧。山口の粕谷家に生まれ、8歳で仏門に入り、17歳で諸国を修行、28歳で全徳寺(北野南二丁目)の13世住職となりました。境内に2つの顕彰碑が建てられています。碑文には明治10年(1877)と14年の内国博覧会で出品した墨梅図が高い評価を得たと記されています。梅の絵を得意としたのは、江戸の絵の師匠梅本樵溪の影響と、全徳寺に近い北野天神社の梅を愛好していたことによります。



▲墨梅画墨梅図(小巻一雄氏所蔵)

問い合わせ 生涯学習推進センターふるさと研究 ☎2991-0308 ☎2991-0309

わが子もしかしたら雨女 若狭 伊藤佳子
第1子は女の子。昭和41年の丙午生まれである。10か月の間、早産の危機と病的なつわりが産むその日まで続いた。お腹の子に「いい子にしてね」と言い続け、いよいよ陣痛が始まり、数時間で我が子と初顔合わせ。私を苦しめたつわりからさよならかと思ふと陣痛なんて何のそのだった。実家の母は「とても痛むけどわめてはみつともない」と言った。姑は水天宮のお札をちぎり丸めて私に飲みなさいと言った。初産にしては早く、3時間後には、500gで生まれ、初めはお乳を飲ませたときの力強く吸うあの感触は今も忘れられない。この子が成長する中、大きな行事があると必ず雨が降った。高校の卒業式は大雪で、もう笑ってしまいました。
生まれたのは、5月22日(日)。1年でも心地よい時季なのにこの日は朝から夜まで雨が降り続いた。実はわが子が雨女ではないかと、今でも否定できない母親である。

誰でも エッセイ
◆テーマ「出産」◆
◆年の暮れと履正月◆
私は、現在77歳。長女を出産する昭和36年ごろは、今と違って病院で出産するということがなく、お産婆さんの家に入院するか、自宅を出産する人がほとんどでした。予定日が1月7日、自宅で餅つきをして30日の暮れに餅切りを手伝っていたら急に陣痛が始まりびっくりました。意外と軽くすみました。お正月は本日に履正月となりました。今では、その娘の息子も成人して大学生になりました。この時代、就職が大変です。いまだに暮れが来ると懐かしく思い出します。

